

# ドイツにおける 医療と環境

## ●最終回「環境」のもつ力を活用したリハビリテーション専門クリニック

今回はドイツの保養地においては自然環境そのものを利用して生活習慣病の予防、慢性疾患の患者やリハビリが必要な患者の治療を行っているということをお伝えしました。

最終回である今回は、リハビリテーション医学を専門としながらも「環境」のもつ力を活用している有名なクリニックをご紹介しますと思います。

岩田 明子 (いわた・あきこ)

ドイツのハイデルベルク大学神学部博士課程に留学。その後、フランクフルトにおいて自然療法と心身相関論に基づく心理学を学ぶ。現在、心理カウンセラーとして東京に在住。自然療法に関する翻訳も手がける。日独環境植物療法研究所研究員。



花が美しい渡り廊下



敷地内に用意された宿泊施設にはスイートルームを含めて370部屋ある



美しい湖が様々な角度から垣間見られるように設計されている

### リハビリ業界で トップレベルにあるクリニック

今回ご紹介しようと思っているこのクリニックは、1989年にオープンしたヴィースゼーWiesseeという南ドイツにある「メディカルパーク・セント・フーバートゥスMedical Park St.Hubertus」というリハビリテーション医学とスポーツ医学を専門とした病院です。整形外科や心臓外科で腰・関節・脊髄・心臓などの手術を受けた数日後に患者さんたちはここへ運ばれてきます。緑が豊かなこの地域は有名な保養地があることでも知られています。美しいテーガンゼーTegenseeという湖の畔にあるこのクリニック

は、保養地としての条件(注1)をすべて満たしてはいないものの、立地条件は保養地のそれと同格の質を保持しているということになります。

保養地医療は、様々な自然療法を積極的に取り入れ、生体反応を利用して自然治癒力をアップさせることを目的とした医療なので、リハビリは得意分野ということがで

きます。このクリニックでは、西洋医学的な病院の機能を完全にもちながら、そうした保養地医療の要素を取り入れた、いわゆる統合医療が実現されたリハビリ専用クリニックなのです。1日約2,000件のセラピーが約100人の療法士によって行われているそうです。稼働率90%以上を誇るこのクリニック。“成功の秘訣はどんなところにあるのでしょうか？ 見学を許可された内部の様子を少しだけ覗いてみましょう”



病院の受付前で。この視察旅行を計画したハノーファー大学生態学の教授リチャードポット博士Prof. Dr.Richard Pottとメディカルパークの医師・トーマス・ホルストマン博士 (Prof.Dr.Thomas Horstmann)



リハビリの一貫として、腰や足の関節を手術した人が車の乗り降りができるよう訓練したり、アクセルを踏みこんだときの強さ、ブレーキを踏みこむタイミングなどを測定して回復の様子を確かめたりすることができる



リハビリ専用のスポーツセラピー。患者は、医師からの処方せんやこれまでの記録が書き込まれたチップを機械に入れてトレーニングをする



電気療法。脳卒中などで麻痺した筋肉に微量の電気を流して刺激を与える



温熱療法。機械から出てきた70度のパラフィンを40度ぐらいまで冷まし、それを背中に当てて体を温め、20分間汗をかくて解毒する



カフェテラスにはケーキも売られている。食事制限をしている患者もいるが、禁欲的な雰囲気は全くない。スタッフの笑顔も「良い環境」の大切な条件となる



ある動きをしたときに、どの筋肉がどのくらい力を発揮しているかを測ることができる機械。その数値を目安にしてトレーニングが行われる。スポーツ医学でも有名なこのクリニックには、F1レーサーのミハエル・シューマッハーをはじめ、オリンピックのメダリストやサッカー選手が医師の処方せんに従ってトレーニングしたり検査を受けたりするために訪れている



ドイツのコール元首相も滞在したことがあるスイートルームと部屋からの眺め



スイートルーム専用の個人ジム

この他、水中療法を行うための個人用プールやクナイプ療法、物理療法、作業療法、鍼灸やマッサージ専用の部屋もありました。ベンツなどの一流企業のマネージャーたちが1週間ほど訪れる燃え尽き症候群を予防するコースなどもあるそうです。

### このクリニックが成功している理由

このクリニックを訪問してはじめて感じたことは、スタッフの方たちの明るくあたたかな態度でした。働いている人たちから発せられる朗らかで優しい雰囲気は、患者にとっては最も身近な「環境」と考えることができるかもしれません。

それに呼応するかのように入院している患者さんたちの明るい雰囲気もまた、たいへん印象的でした。ホルストマン教授は、その理由を次のように説明されました。

「一つの理由としては、世界最高水準の医療技術や医療器具による治療を優秀な医師やセラピストたちから受け、自分の体の状態や治療状況がすぐにわかり、確実に回復に向かっていくという実感や安心感を得ることができるということが挙げられます。これが理由の半分です。残りの半分はこの素晴らしい自然環境にあるということがいえるでしょう。空気と景色の良いこの

土地でこそ、人間が本来もっている自然治癒力を引き出すことができるのだと我々は確信しています」

西洋医をしてこう言わしめた背景については、このシリーズの第1回と第2回においてお伝えしてきました。この言葉のなかに、ドイツにおける2つの医療の流れが見事に一つとなっていることがお分かりになると思います。良い自然環境とリラックスできる室内の雰囲気づくり。体と心の癒しがどうあるべきかを熟知している医師が作ったこのクリニック。成功の秘訣はどうかそのようなところにありそうです。

### 統合医療への流れ

ドイツにおいてはハビリ以外の分野においても、この統合医療への流れが推し進められている傾向にあります。その理由の一つは、一般的に知られている感染症を中心とした古典的な「単一病因論」では対処しきれない生活習慣病や慢性病が増加しているため、患者自身が、自然治癒力をアップさせる方法を求めているということが挙げられます。もう一つは、生態学だけでなく、脳科学の分野においても「複雑系」(complex system) (注2) という概念が定着しつつあり、医学の分野でも「部分と全体は相互に影響を与えあい、そのバランスが

崩れてしまったときに病気になる」という考えが導入されつつあるからです。

細菌学者ロベルト・コッホ (Robert Koch) に始まる病原微生物の発見から「病気は病原菌が原因で起こる」という単一病因論が一世を風靡した時代を経て、人間を取り巻くあらゆる環境 ～自然環境・社会や文化・人間関係～ を考慮に入れた医療現場が求められているのは、実はドイツだけではなくありません。この2つのタイプの医療のあり方は、日本においても独自の形で存在しています。病状や治癒の段階によってそれらを上手く使い分け、統合されていく段階で、日本という土壌にあった流れをいかに作ってイけるのか。それが、ひとつの大きな課題となるのは、時間の問題なのかもしれません。

(注1) 保養地と名乗るには、保養地公園・治療施設・社交や文化活動の場・宿泊施設など法的な規定がある。

(注2) 全体は部分の総和以上のものであり、部分と全体が相互に不可分で、お互いに影響を与えあっているという考え。気象・生命現象・経済や宇宙についての研究分野で一般的になりつつある。